

## 第2回広聴事業の振り返り

## 「校則・生徒指導のあり方について」（オンライン意見交換）

## ○概要

広聴事業は、教育長と教育委員が、児童生徒・保護者及び教職員などの皆様と直接対話による意見交換を行うことで、より実情に沿った政策立案をしていくために実施している。

8月5日（金）に開催した第2回目は、「校則・生徒指導のあり方」をテーマに、市立中学校・高校の生徒、保護者及び教員（計10名）と、教育長及び教育委員（計6名）で2グループに分かれて意見交換を行った。

## ○意見交換会

【Aグループ】教育長・教育委員：3名、生徒：2名（中学2年生、高校1年生）、保護者2名、教員1名

1. 昨年度の取組について	
発言者	内容（要約）
中2生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダーの観点から見ても、制服に関する校則がかなり見直されていて、男子がスカートを履いてもいいし、女子がズボン履いてもいいということになった。</li> <li>・昨年度は、生徒総会が1年に1回あり、その時に校則で変えたいものがないかということ聞いた。全体場で話し合い、校則は変わらなかったが、新しい校則を増やすことになった。</li> <li>・いじめ根絶宣言5箇条の中で、クラスでの重点項目を決めた。</li> <li>・学力向上を目的とした「授業態度改善プロジェクト」を全体場で話し合い、新しく6箇条を決めた。週ごとに目標を設定し、<u>学級委員が達成できたか聞くようにしているが、まだ全体としては意識できていないのが課題である。</u></li> </ul>
中学校教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年前に赴任した現任の中学校は「ドリーム委員会」という仕組みがあり、校則がとても緩やかだった。また、他の中学校がめきめきと変わっていくのも見えた。</li> <li>・当初は教員主導で進められてきた部分は多かったが、教員だけで校則を緩めるのではなく、ドリーム委員会で、靴下の色を黒・紺を認めたり、置き勉がOKとなったりした。ドリーム委員会は全体にメンバーを募り、保護者はPTA関係、生徒は提案者や生徒会、学級委員のメンバーが中心である。</li> <li>・決めるまでは活発に議論して、先生や保護者に納得してもらいたいため、「自分たちはこんなに頑張ります」と言うが、<u>時間が経ち生徒会メンバーなどが入れ替わった後に、その経緯をどうやって伝えていくかが課題である。</u></li> </ul>
2. 見直しを始めての感想	
発言者	内容（要約）
中1保護者	<p>校則に関して、必要以上に厳しいところは無くす方向性でみんなが動いているのは分かる。1学期間を過ごしてみて、<u>それと生徒指導とがどうかみ合っていくのか気になる。</u>集団をまとめるということで、先生方から厳しい態度で接されることが多く、意見を聞き出そうとする雰囲気を感じられない。<u>先生たち自身も学校運営に対する戸惑いがあるのではないかと感じる。</u></p>

2. 見直しを始めての感想（つづき）	
発言者	内容（要約）
中2 保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校側が、先生と生徒の間に壁をつくっているように見える。<u>保護者や生徒が意見を言えるような雰囲気ではない。</u></li> <li>・校則の見直しの仕方では、保護者をその中に入れようとしているようには思えない。今回についても、なぜ平日昼間にするのか。<u>教育委員会なり学校なりの本気度が見えない。</u>ただやりましたという形を残したいがためにやっているように見える。先生たちの忙しさの合間を縫って開催するのは分かるが、結局それは学校側、教育委員会主体である。<u>保護者のことを考えているようには伝わっていない。</u></li> <li>・参加や発言しても、保護者の意見は取り入れられない、変わるとは思っていない。</li> <li>・どんなに話し合っても、今の子どもたちには反映されない。中学生は、実際に反映されるのは2～3年後であるため、小学校の中・高学年が主となって話すのがいいのでは。後に残すことはできるかもしれないが、当事者でなくなっていくという発想を持っているのかが疑問。 →（教育長）当事者になれるように、<u>ガイドラインでは、できるだけその年のうちに反映するようにしている。</u>基本的な方針としては決めた人たちが効果を感じられるようにしているが、できていない部分があるのかもしれない。</li> <li>・変えて欲しくないものも変えられてしまう。卒業するまでは現状維持で良かった。</li> </ul>
苫野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声を挙げて聞き入れられている気がしないというのは、重く受け止めなければいけない。</li> <li>・教育委員会としては、このような場で声を受け止めて、現状を変えることを目的としている。</li> <li>・法律上、勤務時間外に職務命令をすることはできない難しさがある。上手に日程調整が必要。 →（教育長）勤務時間は変えることはできる。土曜か日曜を勤務日にして、平日に振り替えて代休にすることができる。</li> <li>・中学校の高圧的指導、教員養成の大きな課題であり、中学校の文化の問題でもある。同時にシステムの問題であり、余裕がない中で、同じことを同じペースでやっていかなければならず、集団統率をせざるを得ないというプレッシャーを与える。</li> <li>・現状維持でもいいと思っている方もいる。<u>生徒に任せると、より校則が細かく厳しくなるということが起こっている。</u>子どもたちにとってルールが「縛るもの」となっている。ルールは、縛るものでなく誰にとっても良いもので、誰も置き去りにしないもの。<u>ルールをつくる時は、これによって苦しむ人がいないか、置き去りにされる人がいないかということを必ず考えるという大前提の共有が必要である。</u>自分たちの声が反映されていないと思われてはいけない。<u>全ての人の声を聴くという姿勢と仕組みをつくらなければいけない。</u></li> </ul>
出川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>回を重ねていくうえで、子どもも自分たちのこととして、しっかり考えていくようになるのではないか。</u>その土壌を学校の中で育むということが必要であるため、このような機会が生徒指導にも少しずつ反映されていくといいと思うし、そうなっていくのではないか。<u>外側のやり方を変えていくことで変わっていくのではないか。</u></li> <li>→（教育長）大事なのは、1回だけでなく毎年やるということ。ほとんどの学校は、昨年度が最初だが、これからは毎年やっていく。小学校1年生から中学校3年生まで9回やる。今は県立高校もやっており、高校まで12回繰り返していく。この1年1年で進歩していくという要素もとても大事である。今回1回やってみて、良いところ悪いところがある。<u>それを放置するのではなくて、来年度以降にも活かしていかなければいけない。</u></li> </ul>

3. 授業、学校運営全般について	
発言者	内容（要約）
中1保護者	小学生の時とは、先生の口調が違うように感じる。コミュニケーションの行き違いでのトラブルがあった時に、先生が生徒たちに疑問を投げかけはするが、生徒たちの意見を聞き出したり、生徒たちが意見を言えたりする雰囲気ではない。 <u>細やかに意見を聞いていこうという姿勢づくりをする余裕がないように感じる。</u>
中2保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生の生徒への対応の仕方が、小学校とはガラッと変わり高圧的である。生徒が主体的に考えるというスタイルは分かるし成長の過程で必要だと思うが段階がある。小学校で経験がないのに、急に押し付けられている。</li> <li>先生が生徒を下の名前で呼んでいるが、それが当たり前なのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→（教員）親しみを込めた表現として、下の名前で呼ぶ教員がいるのは事実である。</li> <li>→（教育長）そういう先生たちも、中にはいるということ。</li> </ul> </li> <li>水泳について、水泳だけ補講がある理由は。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→（教員）成績を出すための材料。他の勉強に関してはテストがあったり提出物があったりで成績が付けられる。成績が下がると困るため、補講をしたい生徒もいる。</li> <li>→（教育長）厳密に言えば、水泳以外も補講が必要だが、それ以外からある程度推測できる。球技ができたからといって、水泳がどれだけできるかは分からないため、後でやるのではないか。やり方の問題なので強制ではないが、それがないと成績が付けられない。</li> </ul> </li> </ul>
中2保護者	<p>いろいろなことが、学校による、校長判断によるとされている。熊本市で一律に決めていいこともあるのではないか。</p> <p>→（苫野委員）<u>自分たちの学校は自分たちでつくる、自分たちのルールは自分たちでつくる子どもたちを育む。</u>上からあてがわれるわけではなく、先生、生徒、保護者みんなで作っていく。それと教育委員会で一律というのは、若干矛盾する。法制上もカリキュラム編成権は校長にあるが、保護者と先生と子どもたちが対話を通して見直していく。教育委員会からトップダウンというよりは、民主主義社会の土台としての学校にしていきたいという思いがある。<u>校長や学校がみんなで問い合うような対話の場をつかって、教育委員会はその場をつくるサポートしていく、そういった構造になっていくのかなと思う。</u></p>
高1生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生の生徒に対する呼び方は、名前と呼ばれると親近感があり、認められている、信頼されているという思いがあった。生徒にもよると思うが、自分自身は名前と呼ばれるのは嬉しい。</li> <li>小中のギャップとして、小学校では校則が緩い、中学校ではしっかりとした校則がある。高校はまた緩くなる。同じことを保護者も感じていると思う。</li> <li>→（教育長）<u>人によっていろいろな考え方や受け止め方がある。</u>学校の生徒指導についても、これがいいという人もいれば、それはおかしいという人もいる。<u>おかしいと思う人が声を挙げて、それを受け止めてみんなで話し合いをする場があるのが大事である。</u>最初のテーマとして校則で始まっているが、本来は学校運営全般について、いろいろな意見や考え方があり、対立して当然である。自分たちの学校のやり方を最終的にどう決めていくか。そういう場があるというのが最終形である。</li> </ul>

3. 授業、学校運営全般について（つづき）	
発言者	内容（要約）
中2生徒	生徒指導について、トラブルが起きたときに、先生が1人1人しっかり話を聞き解決に導いてもらったため、中学校になってから急に厳しくなったとは感じていない。
遠藤教育長	全部の学校のことを、教育委員会が決めて同じように進めているわけではなく、 <u>それぞれの学校のルールで、それぞれで決めている。そこに、子どもの声や保護者の声や先生の声がどこまで反映されるかということが大事である。共通のルールとして校則の見直しをやることは決めているが、中身についてはそれぞれの学校で議論していく。</u>
中学校教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>先生の中で、クッションとなる立場の人が増えるといい</u>と思う。たくさん授業を持っていたり、部活を持っていたり、先生たちの思いを共有できる先生が少ない。特に大規模校は、先生たちのコミュニケーションがなかなか取れない。</li> <li>・ 受験には関係しないので、心配せずに校長先生や教頭先生に話に行ってもらっていい。</li> </ul>
中2保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校の先生も頑張っていて、校長先生も教頭先生も、保護者のことや地域のことをすごく考えて取り組まれているのは伝わっている。</li> <li>・ <u>保護者にもいろいろなことに興味を持って参加してもらいたいし、教育委員会にも参加できる場を準備してもらいたい。</u></li> </ul>

○まとめ発表【Aグループ】 発表者：中学2年生

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校則を全員で話し合う機会を設けた。</li> <li>・ ルールを子どもだけで決めると逆に厳しくなる。</li> <li>・ 決まりとは何なのか全員が知る必要がある。</li> <li>・ 保護者からは、参加しやすい日時にしてほしい。意見を取り入れようとして欲しいとの意見があった。</li> <li>・ 小学校と中学校の先生との態度の差が大きい。先生が優しくかったのに、急に厳しくなったりすることがあるため、徐々に慣らしていった方がいい。</li> <li>・ 名前の呼び方や生徒指導については、人それぞれ受け取り方が違う。どれがいいかを考えることが大切。</li> <li>・ 共通のルールを決めて、それぞれの学校で中身を詳しく決めていくといい。</li> <li>・ 全員が困らないような決まりをつくっていきたいと思った。</li> </ul>
--

## 【Bグループ】教育委員：3名、生徒：2名（共に中学2年生）、保護者2名、教員1名

1. これまでの見直しの取組について	
発言者	内容（要約）
中2生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートを取って検討したが、<u>それぞれの考え方をまとめるのは本当に難しく、時間がかかり苦戦した。その校則が決まった理由、その要望を出した人の考えが生徒に十分に伝わっていない部分が多かったため、もっと広く伝えていきたい。</u></li> <li>先日開催された子ども議会で、みんなに知ってもらう機会をどうやってつくるか話し合うことができた。</li> </ul>
中1生徒	<p>6年生のときに代表で見直した。シャーペンを持ってきていいということを議題にして話し合った。<u>なぜ使ったらいけないのか、先生の意見も聞けたし、自分たちの意見を言えて良かった。思いを理解して、双方納得できる結果に終わった。</u></p>
中1保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前より校則が柔軟になったことで、今、子どもを安心して通わせられる。女子でもスラックスでいいことになり、スラックスで通っている。子どもが選べるのが良いのではないかと思う。<u>学校と生徒で議論して、選択肢が増えたのは良いことである。</u></li> </ul>
中3保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>校則に関しては、数年前から先生方や教育委員会、児童生徒から話は聞いており、どのように進んでいくのか、児童生徒たちがどのような回答を出していくのか楽しみにしていた。皆さんが不安がっているのを肌で感じていた。</li> <li>心配していたことは、子どもたちが主体的に変えていくところに、先生たちが相席したうえで、本当に子どもたちが伝えていけるのかということ。先生方に対しては、周りの圧力で心が委縮し、ストレスを抱える先生がいないかということ。</li> <li>様々な学校のホームページを確認したが、現在どのように校則見直しがなされているか分からなかったため、ホームページに掲載してもらいたい。</li> <li><u>児童生徒は自分なりに答えを探してほしい。先生は、子どもたちの回答を心配なく受け入れてもらいたい。教育委員会には、校長先生の判断になると思うが、見直しの判断経過を子どもたちが見られる状況をつくってもらいたい。校則見直しの過程を共有したい。</u></li> </ul>
中学校教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>自校では、昨年度、全部の生徒、保護者にアンケートを取り、それを生徒指導主事がまとめ、生徒会を中心に話し合う。その後、生徒5人、保護者5人、教職員5人、計15人でその議案について話し合って決定した。時期としては2学期。3学期を試行期間として、うまくいったということで4月から実施している。<u>保護者や生徒からの意見を吸い上げることを大事にしている。</u></li> <li>ネックウォーマーとマフラーの使用について、高校生がマフラーで首が閉まって危なかったという話を聞いて、ネックウォーマーだけがOKになったということがあった。</li> <li><u>合理的な理由があって決めるところと、何となく昔から決まっているところがあった。保護者の経済面や子どもの考えを調整しないとうまくいかない。</u></li> <li>校則はホームページに載せている。現在、<u>見直しの過程は出していないが、できるだけ情報を公開していきたい。</u></li> </ul>

1. これまでの見直しの取組について（つづき）	
発言者	内容（要約）
西山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が抱える問題点の1点目は、マフラーを校則で禁止するという話があったが、自己責任が学校の責任にされてしまう社会的風潮がある。学校外でのこと、個人の責任が学校に転嫁されてしまう。学校は、過保護になり過干渉になり、校則を厳格化してしまう流れとなる。全国的に校則の見直しを進めていく中で、社会がそのことを理解してくれないといけない。</li> <li>・2点目は、自分が中学生の頃、校長先生が制服から私服にしようという話が出たが生徒が反対し、私服にならなかった。当時はみんな貧しく、毎日同じ服を着ていかなければならなくなるため、からかわれるなど嫌な思いをすと思ったから反対した。</li> <li>・<u>みんな平等の方がいいというのは、ある意味真実だが、画一化をもたらす。個性を発揮する機会がなくなる。</u>本来ならば、画一化を避けて生徒の個性を引き出さなければいけない立場の学校が画一化を押し付けているということになる。しかし、私服にしまえば貧しい家のお子さんはみじめな思いをして不登校につながるということが想定できる。</li> <li>・自分が中学生のとき、校則は生徒手帳に載っていたが誰も読まず、意識しなかった。<u>取組をすることで、生徒自身が意識するようになったのがいいことではないか。</u>校則の意味が周知されていないことが問題だという話が出たが、見直しすることになったら関心が高まる。意見をまとめるのは大変だが、絞った人数での話し合いにすれば何とかかなると思う。</li> <li>・今回のことで、<u>先生と生徒との意見交換ができて、双方納得する形で校則を決めることができている</u>というのも良いことではないか。</li> </ul>
小屋松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則の見直しに生徒たちがどうやって関わっていったかが重要である。アンケートで意見を聴取されていたが、<u>その意見を出した当人同士がなぜこういう意見を出したかを議論する機会があってもいいのではないか。</u>興味のある校則があれば、テーマを絞ってそこに興味のある人が集まって議論をするという工夫があってもいいかもしれない。全部が1つの校則という捉え方の中で議論するのでなくて、それぞれが興味を持ったところで話をする。そうすることによって、<u>いろいろな考え方があることを知ること、違う意見を自分の中に取り入れて納得していく</u>という課程も大事である。みんなが多様な意見を持っているということを知って、<u>多様な意見を理解し合うことが必要である。</u></li> <li>・民主主義は1つのことを決定するのに非常に時間がかかるが、大事にしないといけない。世の中を見ているとトップが決めたことを守らざるを得ない、トップが決めた法律に従い自分の意見すら言えない国もある。</li> </ul>
澤委員	<p>校則見直しで基本となるのは、自分たちがどんな学校にしたいのかということ。自ら考え判断し行動する児童生徒を育成したい。</p>
中1生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会では、<u>生徒一人一人が主人公となって活動して欲しい</u>という願いがあり、みんなで話し合っていて決めている。</li> <li>・月に1回、生徒全員で話し合う場があり、<u>各学年の意見や要望が活発に出ている</u>ように毎回感じる。みんながきちんと考えてくれているのが伝わっている。</li> </ul>
中3保護者	<p>子どもは、校則には興味はないが部活にはあるなど関心を持つ部分が人それぞれであるため、関心があることに頑張ってもらいたい。強要すると民主主義や人権の観点から外れてしまう。</p>

2. 地域との連携について	
発言者	内容（要約）
澤委員	地域の方と学校の繋がりについて、例えば、2人乗りしていた、危ないところを渡っていた、こんな格好をしていたなどは、学校に連絡がある。 <u>どのように地域に理解してもらうか。</u>
中学校教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>地域との関わりについて、校則は浸透していないのが事実である。</u></li> <li>・自校では、校長を中心としてホームページを充実させて啓発をしているが、いろいろな電話がかかってくる。<u>子どもは地域で育てるという意味では、地域にも浸透させなければいけない。</u></li> </ul>
中1保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の地域は、老人会の方が自主的に見守り活動をしてくれる。地域との連携は取れているが、校則への関心は高くない。</li> <li>・校則の見直しに、地域の方が入った場合、どれくらい関心があるかを知りたい。<u>どのようなところが気になるという意見の吸い上げがあってもいいかもしれない。</u></li> </ul> <p>→（澤委員）子どもが主体的に頑張っていることを知ってもらえると、何もかもが駄目だという感覚がなくなっていくかもしれない。</p>
中3保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>見直しが進んでいないわけでないが、出来上がっていない感じを受ける。</u>学校の先生、児童生徒は、学校の枠内で作業をされている。保護者の方々、地域の方々までにはなかなか周知されていない。学校から配布されたプリント、校則見直しアンケートがあったとしても、保護者に届いていないケースもある。</li> <li>・地域の方に関しては、様々な年齢層であるため、参加してもらおうと話がまとまりにくくなるのでは。</li> </ul>
3. 今回の感想	
発言者	内容（要約）
中2生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の視点で生活しているが、保護者や教育委員会、先生の視点から話を取り入れることができ、<u>いろいろな視点から考えるきっかけになった。</u></li> <li>・今回の話を持ち帰って、いろいろな視点を大切にしながら考えて行きたい。</li> </ul>
中1生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則について関心がない、意見が言えないという話が出たので、<u>学級会を開いてみんながしっかり自分の考えを言えるように話し合っていきたい。</u></li> <li>・親にも、学級会で話し合っただけで決めたことなどをしっかり伝えていきたい。</li> </ul>
中1保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と保護者が話し合えるというのがとても良かった。<u>校則は変えられないのではなく、対話を持って良い方向に向かう、子どもたちの成功体験に繋がって自信になっていく。</u>先生たちも指導で忙しい中、時間を取ってもらえたのが保護者として嬉しい。</li> <li>・自身の高校時代の校則がとても厳しく、楽しい思い出があまりない。校則で縛られるのではなくお互いに解決できるのであれば解決して、家庭から子供のサポート、学校のサポートをしていきたい。</li> </ul>
中3保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が子どもの頃は、校則は破るものだと思っていたし、気に入らないものは署名活動をして、校則を変える話を学校長に持って行っては追い返されていた。</li> <li>・校則は一旦変えたから終わっていいのではなく、<u>年度ごとや不具合が生じた都度、簡単に変えていける体制があるといい。</u></li> </ul>

3. 今回の感想（つづき）	
発言者	内容（要約）
中学校教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期はアンケートを取って各学級で話し合いをしてみたい。生徒会に挙げていくと、より洗練されていくのではないかと計画している。18歳になると選挙権があり、国の政治にも参加できる。<u>校則の見直し</u>がどういうルールでどうやって変えていくのかを子どもたち一人一人が理解することで、今後、熊本市も熊本県も国も、自分たちで変えることができるんだと実感するのではないかと思う。</li> <li>・自分の中学校の頃は、有無を言わず丸坊主だった。そういったところも変わりながら、少しずつ学校の決まりを見直そうという動きもあるので、これを大切にしながら、<u>子どもたちが安心安全に学校に通えるように仕組を作っていくのが教員の仕事</u>だと思う。</li> <li>・子どもたちは、思いをできるだけぶつけて欲しい。子どもたちを理解することが教員の使命でもある。<u>保護者の意見も、子どもの意見もできるだけ学校の先生に伝えていただきながら解決</u>していきたい。</li> </ul>
澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども議会で、子どもたちが多様性という言葉をよく使っていたが、ジェンダーの話が主だった中で、ある班が、病気のあるなしや家庭の事情など、いろいろな多様性に目を向け、柔らかい考えを持っていた。</li> <li>・子どもたちはこのことを通して、話し合うことの意味、民主主義の段取りを経験しながら成長していることを感じた。<u>急に何かを変えるのではなくスモールステップで、少しずつ前に進むことで子どもたちが成長していくのではないか</u>と思う。</li> </ul>
西山委員	保護者が肯定的に受け止めてくださって、生徒が主体的に関わっており、学校側も生徒との関わり合いの中で、安心安全で通える校則にしたい頑張っていることが分かり嬉しく思った。

## ○まとめ発表【グループB】 発表者：中学2年生

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との関わりについて、地域の方々が、校則の改定や経緯についてまだ知らないことが多い。</li> <li>・学校のホームページに校則は載っているが、経緯までは届いていない部分があり、どうやってこの校則が変わったのかという情報を、保護者が求めている。</li> <li>・校則の見直しには関心のない生徒たちがいることについて、校則には関心がないが部活には関心があるという、それを認めてあげる目線や、それをどう受け止めていくかを考えていかなければならない。</li> <li>・民主主義のあり方について、いろいろな考え方を認めていく中で、違う方向に考えが進んでしまい、逆に厳しくなることがあるため、民主主義の土台、初段階の状況であるので、目的や趣旨を意識しながら生活していくことが大切である。</li> <li>・自分の学校では全校生徒の校則の認知があまりうまくいっていないので、今回の話し合いを基に、しっかり校則改定の経緯について伝えていきたい。</li> </ul>
---

## ○全体を通しての感想（教育委員）

発言者	内容
西山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則は、学校だけの問題ではなく社会全体の問題であることを強く感じた。学校の外ですること全てが学校の責任にされる風潮がある。自己責任の部分まで学校の責任になるため、過保護・過干渉になって校則を厳しくせざるを得なくなる。社会的風潮が学校に責任を押し付けるようになってきている。全国的に校則見直しを進めるうえで、もっと社会に理解してもらわないといけない。</li> <li>・校則が生徒の画一化をもたらしている。<u>私服の導入の話では、家庭の経済的な事情があり、毎日同じ服を着ていけないといけないためみんな平等でいい、これは一方で子どものアイデンティティを表現するチャンスを奪っている。社会に出た途端に、個性を発揮することが求められる。</u>校則は学校だけの問題ではなく、日本全体で考えなければいけない問題である。</li> </ul>
出川委員	<p>校則の見直しはスタートしたばかりで、ここから見えてきた課題に取り組んでいくのが大事である。<u>毎年見直して、長く議論を重ねたことで子供たちがどう進化していくのか見守っていく必要がある。</u>校則の見直しから見えてくる課題に、取り組んでいく必要がある。</p>
小屋松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則の見直しを生徒が自分事として捉えることが大事だが、まだ徹底していない。今一度、校則というものを生徒の中で共有しあう機会をつくって欲しい。<u>大事なことは、いろいろな考え方があることを知り、なぜそういう結論に至るのかをお互いに理解しあう過程である。</u></li> <li>・ある中学校では、全生徒にアンケートを取り集約して、15人の合議制で決定していくというプロセスがあるとのことであるが、前段で、生徒たちみんなでもう一回話し合う、生徒同士の意見を出し合う、そのような機会が良かった方がいいかなと思ったところに、今後の取組として、学級内での話をつくっていききたいとの話が出た。ぜひ実現してもらいたい。</li> </ul>
苫野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者2名の存在を知れたことが大きな収穫であり、熊本市の今後の頼もしい支え手だと思った。対話の時間は、多くの心からの声が聴けて本当に良かった。こういう機会を各学校で重ねていけないといけないと改めて思った。</li> <li>・中学校で高圧的な指導があるということで、生徒指導のあり方をますます見直さなければいけない。教育学のエビデンスで、高圧的な指導は子どもたちの学力においても健全な発達においても阻害する、伸び伸びと子どもたちの主体性が尊重されて、子どもたちの人権が守られてリスペクトされる環境だと、学力に関しても正の影響がある。</li> <li>・保護者や先生方の間のクッションになる存在は大事である。学校現場では「文句を言う」という姿勢になることで、意見を言われることが怖く先生も身構えるというのがある。本当は<u>先生も保護者も地域の人も生徒も、みんながこの学び舎をつくる仲間であり、先生と保護者は子育ての応援団であるため、敵対関係でなく、一緒に対等な仲間として対話できる場が大事である。</u>予算が付くなり、加配されるなり、学校の中で対話の場ができるようなサポートを教育委員会としてもする必要があるのではないか、今後議論したい。</li> </ul>
澤委員	<p>忘れてはいけないことは、何のためにそれをしているのか。どんな学校にしたいのか、教員も児童生徒もしっかりと考えて、細かいことばかりに目を向けずに、学校が変わっていくことに期待をしたい。こういった場をきちんと教育委員会が設けていく。<u>自分たちに関係のある「自分事」について考える時間を、学校の中で、確実に確保していくのが大事である。</u></p>

## ○全体を通しての感想（まとめ発表者以外の生徒）

発言者	内容
高1生徒	たくさんの視点から、いろいろな話を聞くことができ、学べたことがたくさんあった。この経験を活かして、高校でも自分から積極的にいろいろな活動に取り組んでいきたい。
中1生徒	自分だけがいいという考えでなく、いろいろな人に合わせた決まりにしないといけない。周りの人みんなが生活しやすいような決まりを作っていけたらいいと思った。

## ○総括（教育長）

4人の生徒から話をしてもらったが、素晴らしい考えを持っているし、意見もはっきり言えるし、人の話も聞けるし、生徒を信じて任せていいんだと確信した。それを基本に、いかにいろいろな意見を学校運営に反映させていけるかということ、教育委員会としてもどうサポートできるかということ、今日は学ぶことができた。ただ聴いただけでなく、今回を活かして私たちに何ができるかということで、今日から行動していきたい。